



地下鉄短 信 (第 433 号) 令和元年 12 月 19 日 発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 佐々木 雅多加
電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事 1. 「令和元年度地下鉄事業現地見学会」を開催

1. 「令和元年度地下鉄事業現地見学会」を開催しました。

去る、12月12日(木)に、「令和元年度地下鉄事業現地見学会」を、普通会员(7社局12名)及び賛助会員(12社20名)計19社局32名を含む参加可能枠一杯の35名が参加して開催しました。

この現地見学会は、地下鉄事業者等のご協力の下に、会員各位の知識・技術の研鑽の場として、また会員相互の交流の場として、平成11年度から毎年実施しているものです。

今回の現地見学会では、「独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構」(以下、「鉄道・運輸機構」という。)様の御協力を得て、「神奈川東部方面線」のうちの「相鉄・東急直通線」の建設現場を見学させていただきました。

「神奈川東部方面線」整備事業は、都市鉄道利便増進法に基づき、「相鉄・JR直通線」(相模鉄道本線西谷駅～羽沢横浜国大駅)および「相鉄・東急直通線」(左記の羽沢横浜国大駅～東急電鉄東横線・目黒線日吉駅)の二つの連絡線を整備するもので、「相鉄・JR直通線」は、先月30日に開業し、新宿駅まで運行を開始しました。一方の「相鉄・東急直通線」は、「相鉄・JR直通線」の羽沢横浜国大駅、新横浜駅(仮称、以下「新横浜駅」という。)、新綱島駅(仮称、以下「新綱島駅」という。)を經由して東急線日吉駅に至る路線で、令和4年度下期の開業を目指し鋭意建設が進められています。



「神奈川東部方面線」整備事業



直江所長による概要説明風景

開催日当日は、寒い冬から一転して、11月半ばの穏やかな天候となる中、「鉄道・運輸機構」東京支社綱島鉄道建設所において見学会を開催しました。当協会の開会挨拶の後、綱島鉄道建設所の直江所長様から「相鉄・東急直通線」の事業概要並びに新綱島駅及び駅両端部から日吉駅と新横浜駅の両方向に発進しているシールド工事の概要について説明がありました。

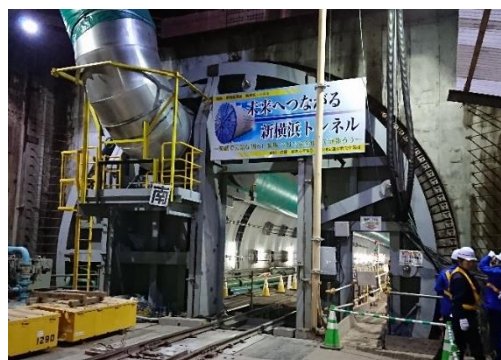
新綱島駅は、地下4層の開削地下駅で、その特徴は、駅周辺に建物が密集し、生活道路と交差するなど狭隘箇所における施工となるため、鉄道駅として日本初の「土留め壁を本体利用する」という新工法を採用し施工幅の縮小を図ったそうです。また、日吉側34.5mの地上部は、病院およ

び商業ビルなど堅牢な建物の密集により、地上部が利用制限を受けることから、非開削工法で片押しの推進工法を採用したとのこと、技術的にご苦労の跡が垣間見られました。

一方、駅両端部から発進するシールド工事のうち、日吉駅側の綱島シールドは、新綱島駅・日吉駅間、延長 1,100m の円形（直径約 6.8m）単線並列トンネルで、泥土式シールド工法を採用し、もう一方の、新横浜駅側の新横浜シールドは、新横浜駅・新綱島駅間、延長 3,304m の円形（直径約 9.5m）複線トンネルで、泥水式シールド工法を採用しており、鶴見川底部を通過後の硬い地層の直線区間においては鉄道トンネルで日本初の「幅広（2m）のセグメント」を採用しているそうです。

これら概要説明の後、まず、①新綱島駅の駅部建設工事現場を見学、次いで、②日吉駅側の綱島トンネル工事現場を見学した後、③新横浜駅側の新横浜トンネル工事現場と泥水処理プラント現場を見学しました。

新綱島駅工事現場は、現在、駅構造物築造の最盛期であり、また綱島トンネル工事現場は、シールドマシンが土中に掘り進んだ直後の状況、いわゆる初期掘進の状況が見学できました。一方の新横浜トンネル工事現場は、施工区間の中間に位置する鶴見川底部先まで見学しましたが、トンネル内は漏水がみられず、また、通路が整然と整理されていることに驚くばかりでした。



新横浜トンネル工事現場全景

今回は、鉄道構造物として日本で初めて採用された「本体利用の土留め壁」や「幅広（2m）セグメント」の見学に加え、単線、複線両シールドの見学、特に初期掘進中の状況も同時に見学できたことは幸運でした。

3箇所の現場見学を終え、建設所に戻った後の質疑応答のなかで、①なぜ「本体利用の土留め壁」を採用したのか、②どうして駅部両端のシールドで、泥水式シールドと泥土式シールドという異なる工法を採用したのかなど、多くの参加者から活発な質問があり、予定の時間を超過しましたが、無事見学会を終了することができました。

最後に、業務ご多忙な中、当協会の現地見学会に貴重な時間を頂くなどご協力いただいた「鉄道・運輸機構」の直江所長様並びに本社工務部の上松係長様や関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: sasaki@jametro.or.jp